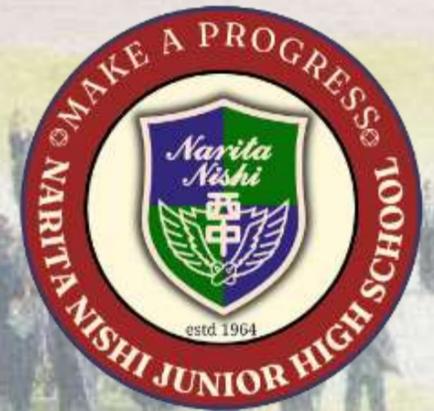


新たな学びの場の創造

生成AIを「創造的パートナー」とする未来の教育へ



千葉県 成田市立西中学校

AIは脅威か、チャンスか？

予測不能な未来を生きる生徒たちに、今、本当に必要な力とは何か。

- 本校のスタンス

「わからないなりに誠実に
想像して未来図を描く」

- 目指すもの

単なるツール導入ではなく、
AIを「**創造的パートナー**」と
位置づけ、教育を変革する

生徒の「今」と「未来」に向き合い学校をアップデートする覚悟

私たちは未来の不易を作っていく

すべての変革の原動力は風土づくり

「前へ 挑戦」

「誰一人取り残すことなく、前進し続ける学校」

**テクノロジーの活用は、このビジョンを実現するための道具
真の革新は変化を恐れず挑戦する文化の創造**



グラウンドデザインと5つの柱



グラウンドデザインで学校の方向性を明確にし、**ビジョンを共有してスタンダードを上げていく**
職員が挑戦する風土をつくる

～「信頼」を基盤に「前へ」進み続ける学校づくり～
令和7年度 成田市立西中学校 グラウンドデザイン

めざす学校像 誰一人取り残すことなく、前進し続ける学校
 ◎挑戦する姿勢を大切にし、創造的な活動に満ちた学校
 ◎将来への希望をもち、一人一人が自己の未来を切り拓くことができる学校
 ◎生徒と教師が和やかで、信頼し合い、良さを認め、伸ばす学校
 ◎けじめがあり、正義の通る、活気のみぎさる学校
 ◎家庭・地域に開かれ、信頼される学校

学校教育目標「前へ」
 1. 感性豊かな生徒
 2. 生命を大切にし、心身を鍛える生徒
 3. 意欲を持って、学習に取り組み、自分を高める生徒
 4. 思いやりがあり、マナー・挨拶を大切にす生徒

【か】感性
【た】体力
【ち】知性
【こ】人間力

目指している! 挑戦するものがあるとワクワクする、何よりも毎日楽しくなる、大きな目標も、日々の一歩一歩の積み重ねがあつてこそ達成できるもの。「挑戦」が西中を楽しくする。さあ、「前へ」進もう!

めざす生徒像
 互いを尊重し、高め合うことのできる生徒
 ◎ためらわずに挑戦し、創造的な活動を楽しむ生徒
 ◎授業に向けて学ぶことの喜びを覚え、真剣に学習に臨み、実績について自主的に考える生徒
 ◎美しいもの、すばらしいものを素直に感じ取り、表現できる生徒
 ◎自然の命の尊さを理解し、自ら環境性心身を鍛え、健康かなで歩
 ◎正しく判断して、何事にも挑戦するたくましい生徒
 ◎人の役に立つことに喜びを感じ、社会に貢献できる生徒

めざす教師像
 常に自らの力量向上に努め、生徒に心から寄り添うことのできる教師
 ◎生徒の声、考えをよく聴こうとする教師
 ◎様々な課題を見逃さず前向きに対応する教師
 ◎学力の向上と新たな学びの場の創出を目指し改善し続ける教師
 ◎しなやかさをもち、発想力、段取り力、評価力、修正力の向上に意欲的に挑戦し続ける教師
 ◎高い倫理観を持ち、心豊かに健康で、明るく活発な教師

研究主題「新たな学びの場」の創造
 全教育活動で、子供達の今と未来をつなぐ学力を育てる

ADSプライドに基づく実践プラン
 学び手が主役となる学びへの授業デザインの改革
 教育DXの推進

学力向上 「新たな学びの場」を創出する。学力向上を目指す。	◎授業の質向上と知識の工夫、学習の習慣化(一人一人が主体的に学習活動の意義)により、学習意欲の向上を目指す。 ◎他者との意見や考えを交換しながら思考を深め、充実した学習経験を積み重ねる活動を実施する。 ◎自然環境を工夫し、よりよい学びの場を創出する。学習意欲を高める。◎教科横断的カリキュラムにより生徒の主体的な取組を促す。
生涯学習 生涯学習、生涯学習、生涯学習を推進する。	◎心を通い、夢や希望、目標を共有し、達成するための機会を多くする。 ◎全教員が生涯学習の推進に力を出し、個々の多様な学びの場をつくり、多面的な視点で物事をとらえることができるよう支援する。 ◎ICT機器を活用し、生徒の不安を軽減し、寄り添い、毎日学校へ行こうと思える学びの場をつくる。
特別支援教育 全教員が特別支援教育の推進に力を出し、寄り添い、毎日学校へ行こうと思える学びの場をつくる。	◎生徒互いに寄り添い、学びの場を築き、適切な計画・支援方法を工夫し、全教員が協力体制で支援していく。 ◎校内体制の充実や、保護者や関係機関との連携強化に努め、教育的ニーズに応じた、適切な指導及び必要な支援を行う。 ◎支援学級、通級教室を核として学校全体の特別支援教育力の向上をはかる。
道徳教育 心豊かに生きる力を育てる。	◎多様な価値観を尊重する力と思いやり、感謝の気持ちと人柄を大切にし、社会貢献できる人間性を育てる。 ◎自分の行動に責任を持ち、仲間、関係者と共に課題を乗り越え、成長を遂げる力を育てる。 ◎異なる背景や多様な価値観を持つ人々を尊重し、社会の一員としての自覚を深める。 ◎SEL(教育)の推進、自分自身の感情や他者との関係を理解し、良好な人間関係を築くためのスキルを育成する。
生徒活動 生徒の主体的な活動・取組を推進し、自己実現、人間性形成能力の育成をはかる。	◎生徒主体の活動・取組を推進し、自分たちの手でやり遂げたという達成感を味わわせる。 ◎実践への参加意欲を高め、自己理解、人間性形成能力の育成をはかる。 ◎達成感を共有し、誰一人取り残さない生徒活動を推進する。 ◎自分たちの生活の向上のためにアイデアや学びだことを共有し、創造的に実践する姿勢を育てる。
SDG(教育)の推進 持続可能な社会の実現に貢献する。	◎小中連携、家庭・地域・関係機関との連携の強化、信頼に支えられたチーム西中の実現。 ◎開かれた学校作りを推進し、学校・家庭・地域・関係機関との一層の連携を図る。 ◎「生徒の成長」をめざして、望い信頼関係で結ばれたチームづくりに努める。

生徒の「今」と「未来」に向き合い学校をアップデートする 基盤となる背景・軸を明確にする

学力は「子供達の今と未来をつなぐもの」

3 社会性・協調性：枝葉となる広がり

- 社会性・協調性は、グローバルな舞台で活躍するための枝葉
- より良い社会の創り手となる土壌



今の自分



未来の自分

Made with Napkin

1 基礎的な学力 成長の土台

- 未来における学びの土台
- 学習習慣や知的好奇心は生涯にわたる学びのエンジン

2 思考力・判断力・表現力：

幹となる力

- 未知の課題解決や創造性がの幹となり、
- 変化の激しい社会を生き抜くための指針を作り出す

4 自己肯定感・自己成長力： 花開く力

- 自己肯定感・自己成長力は、自分らしい花を咲かせるための力
- 自己実現に向けて力強く歩んでいくことができる力
- 人生を豊かにするウェルビーイングの基盤となる。

GIGAスクール構想から始まった、変革の3ステージ



ステージ1: 土台づくり

ICTによる

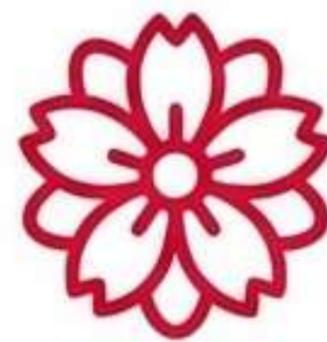
「つながり」の構築



ステージ2: 変革の加速

DXによる

「協働」のデザイン



ステージ3: 未来への飛躍

生成AIとの「創造」

第1ステージ：「つながり」の強化

テクノロジーを、まず生徒に寄り添い、**安心感**を育むために活用。



心の状態を可視化し、SOSを早期に察知



教職員全員で生徒情報を共有し、多角的に支援

コミュニケーションツールやアセスメントツールを導入し、
生徒一人ひとりの心の動きに、より早く・的確に気づく体制を構築した。

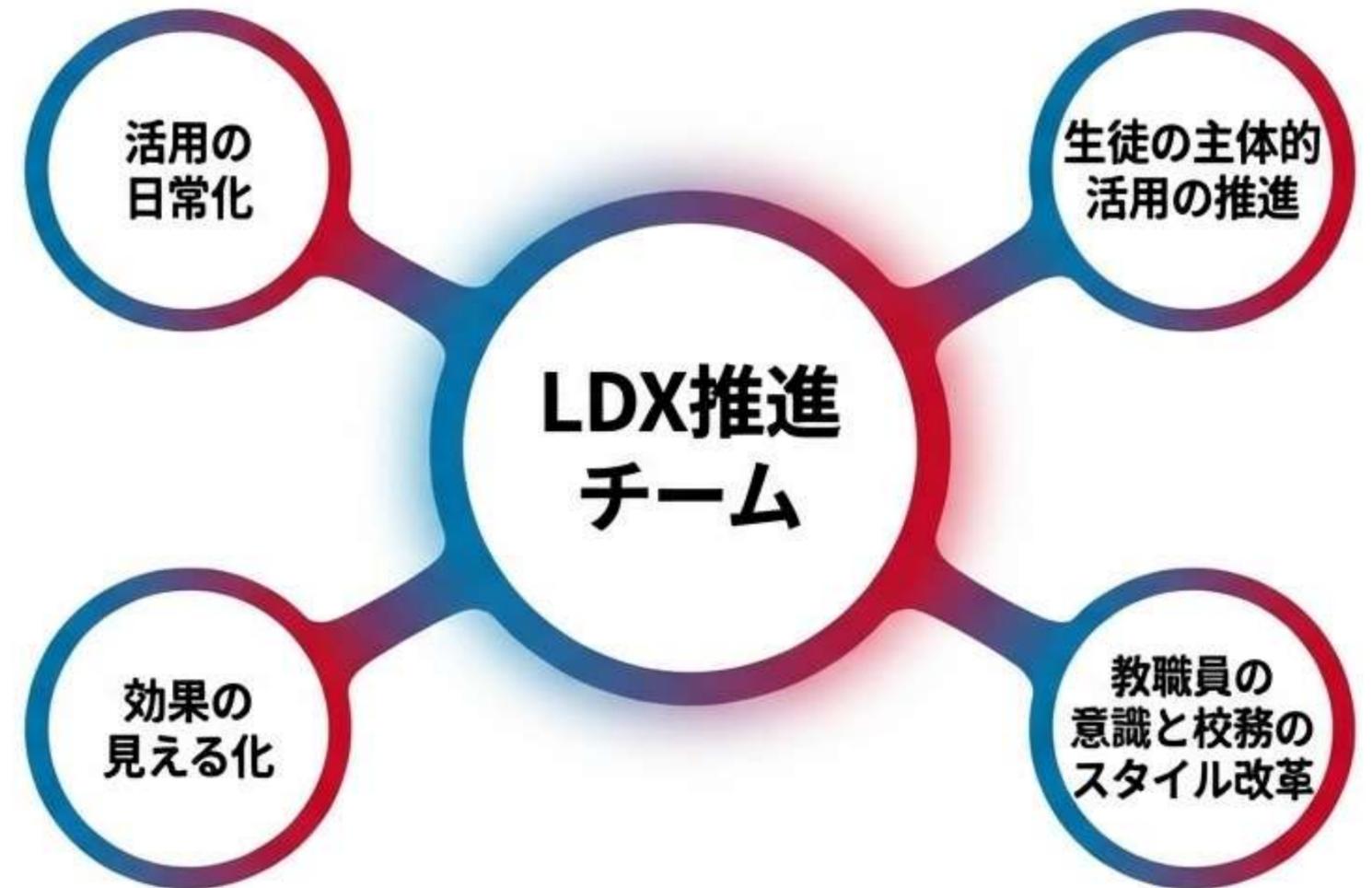
NotebookLM

テクノロジーの**活用が日常化**し、**失敗を恐れ**ない挑戦する文化・風土が
次のステージへのスムーズな移行につながった

第2ステージ：「協働」のデザイン

挑戦する文化を土台に、**学校運営の仕組みを改革。**

- ✦ 会議の削減 クラウドツールでのブレスト
- ✦ 情報共有の効率化 チャットツールで情報を迅速に共有、職員間の「刺激」と「気付き」を促進
- ✦ 校務の効率化 校務支援や採点などもデジタル化、負担が大幅に軽減



職員が「**とりあえずやってみる文化**」と呼ぶトライアル&エラーの土壌が確立。

ステージ1～2の成果 「個の変容」から「組織の変革」へ



教職員の変容

「とりあえずやってみる文化」の定着

“「やってみて、いいな、と実感をもてる場面がたくさんある」”



生徒の変容

「共有する」ことが自然になった

ロイロノート等を活用し、生徒同士が解法を比較・発表するなど、協働的な学習が日常化。



学校全体の変容

挑戦と変化を恐れない風土

職員相互が刺激しあい、学び合う強固な文化が醸成された。

第3ステージ: AIを「創造的パートナー」として位置付ける

創造的パートナーシップ

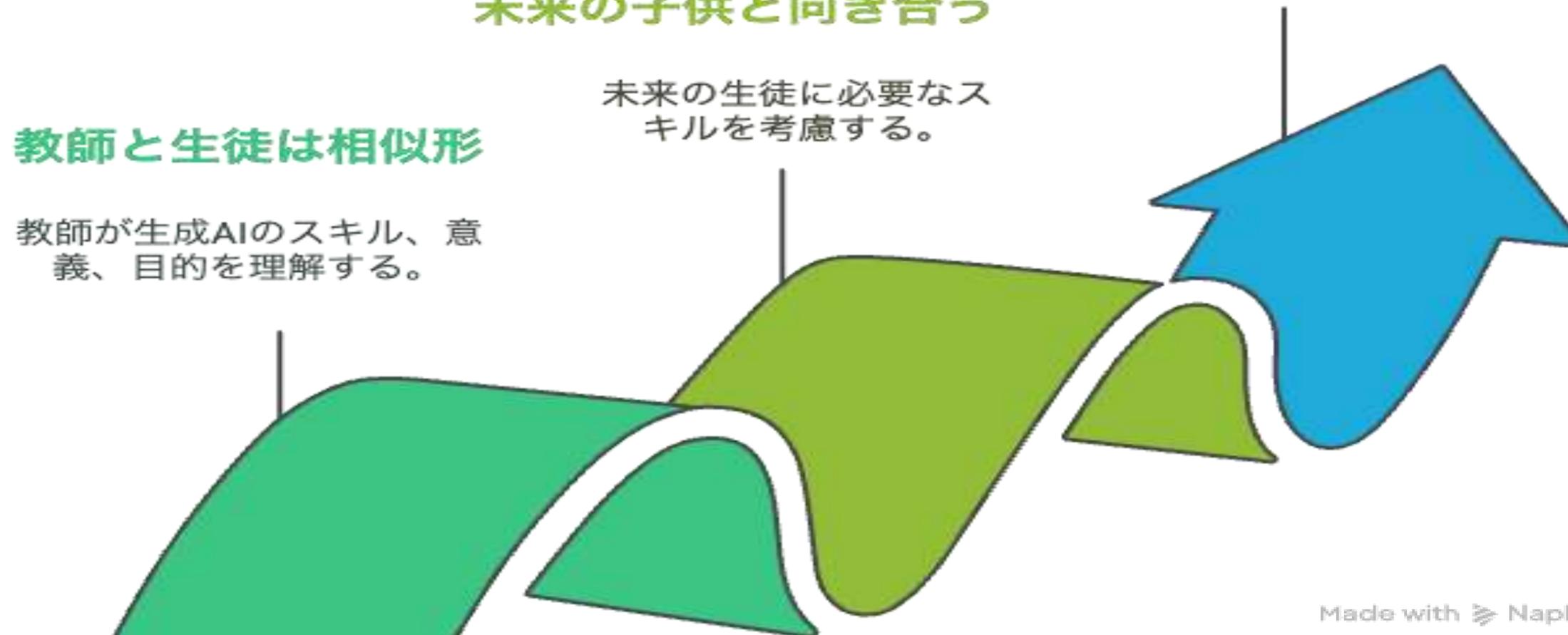
AIを創造的なパートナーとして活用する能力を育成する。

未来の子供と向き合う

未来の生徒に必要なスキルを考慮する。

教師と生徒は相似形

教師が生成AIのスキル、意義、目的を理解する。



Made with  Napkin

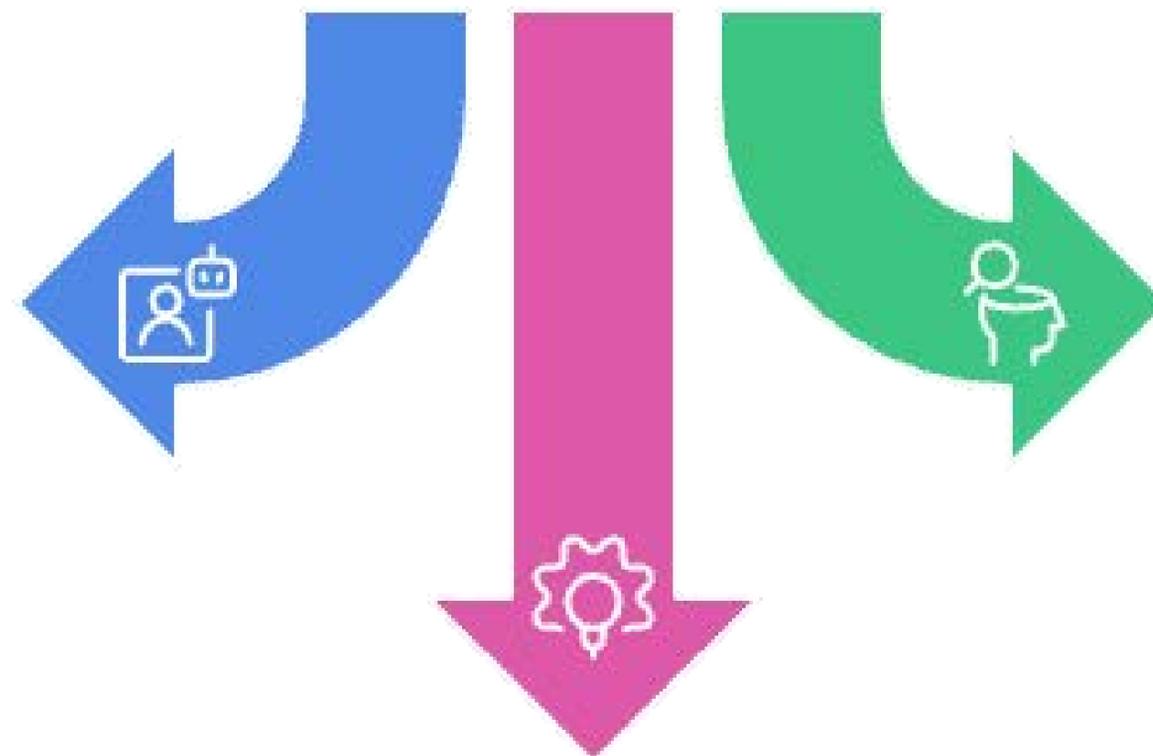
- 生徒の未来と向き合い「AIが社会インフラとして機能する世界」を想定する
- 子どもたちが AIと共に新たな価値を生み出す力を育む
- まずは教職員が率先してAIにアクセスし、その上で授業デザインの改革を進める

生成AIを活用した授業実践事例

教科を超えて「AI技術の習得」自体を目的にせず、「人間の能力(言語化・メタ認知・創造性)がいかに鍛えられるか」を主眼に活用する柱を設定する

表現力・言語能力を鍛える

AIへの指示だけでなく、人間同士のコミュニケーション能力も高める表現力を鍛える



メタ認知・俯瞰力を鍛える

情報の真偽を見極め、自分の頭で考える習慣づくり

創造性を鍛える

AI時代においても代替されない人間独自の価値を発揮できる力

思考を「代替」せず、「拡張」する授業デザイン

国語（ディベート）

AIを「5人目のメンバー」として議論に参加させ、多角的な視点を得る。

言語能力を鍛える



数学（データ分析）

選挙予測が外れた理由をAIと壁打ちし、思考の補助線とする。

メタ認知力を鍛える



体育（ダンス）

「保護者が見やすい隊形」をAIに言語で相談し、身体表現に変換する。

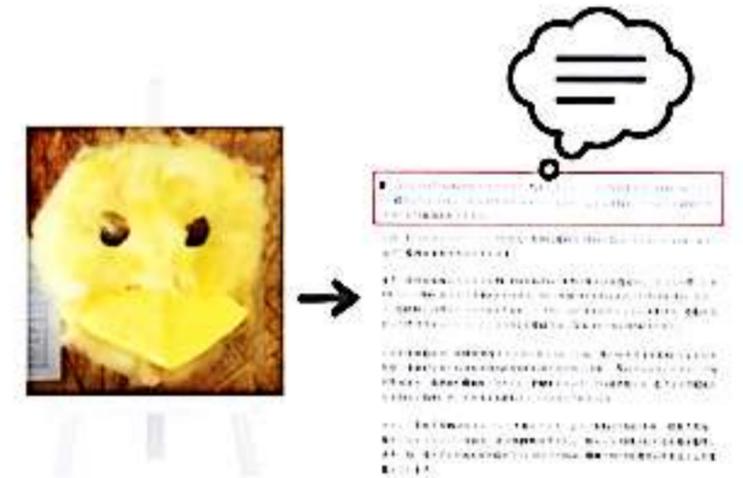
表現力を鍛える



美術（作品制作）

自分の作品へのAIからの感想を通じて、創作意図の言語化を促す。

創造性を鍛える



共通点：AIは答えを出さない。生徒の「気づき」と「改善」を促すパートナー。

言語化能力を鍛える：国語

AIとディベート学習

学習目標

情報を選択・活用する能力の習得と論理的思考力の向上

AI活用方法

- AIとのディベートを通じて異なる視点や反論を取り入れる
- AIの出力結果をグループごとのホワイトボードに整理
- 文章の中の重要なキーワードを抽出し、まとめ直す

学習プロセス

1. AIの出力結果を表示
2. グループでホワイトボードに整理
3. 発見や象徴的な出来事をキーワードで言い換え
4. 話し言葉から書き言葉への変換

生徒の感想

「AIとディベートすることで自分の意見からは考えられなかったことを取り入れられた。反論やAIの評価から、意見の伝え方の工夫が大切だと思った。」



ゆーり

あなたは非常に学力の高い中学2年生です

私とディベートで対戦をしてください

テーマは「中学生は中学校内でも化粧をしていい」です

私は肯定側であなたは否定側です。

私から意見を書きます。それを受けてあなたは常に私の意見に反論しながら自分の意見を出してください。

一度の意見は150字程度で答えてください。



StudyPocket

承知しました。それでは、あなたの意見をお聞かせください。



ゆーり

私はコンプレックスを隠すためにも、学校内でも化粧をしてもいいと思います。



StudyPocket

化粧は一時的にコンプレックスを隠せますが、中学校は学びの場であり、内面的な成長が重要です。化粧に依存すると自己肯定感を化粧に頼ることになり、真の自信は得られないかもしれません。自己成長を促すために、自分と向き合う時間を大切にすべきです。

ディベートの効果

- 相手と自分の意見の違いを確認
- 相手の意見の良いところを取り入れる
- 自分の考えを深める
- 「5人目の存在」としてAIが自然と受け入れられる

メタ認知力を鍛える：数学

標本調査の導入授業

学習目標

標本調査の理解と適切な調査方法の習得

AI活用方法

- 過去の学習内容の振り返り
- これから学ぶ知識の検索
- 生徒の意見分析
- 統計問題のヒント取得

複線的な授業展開

一人で考える

ペアで考える

グループで考える

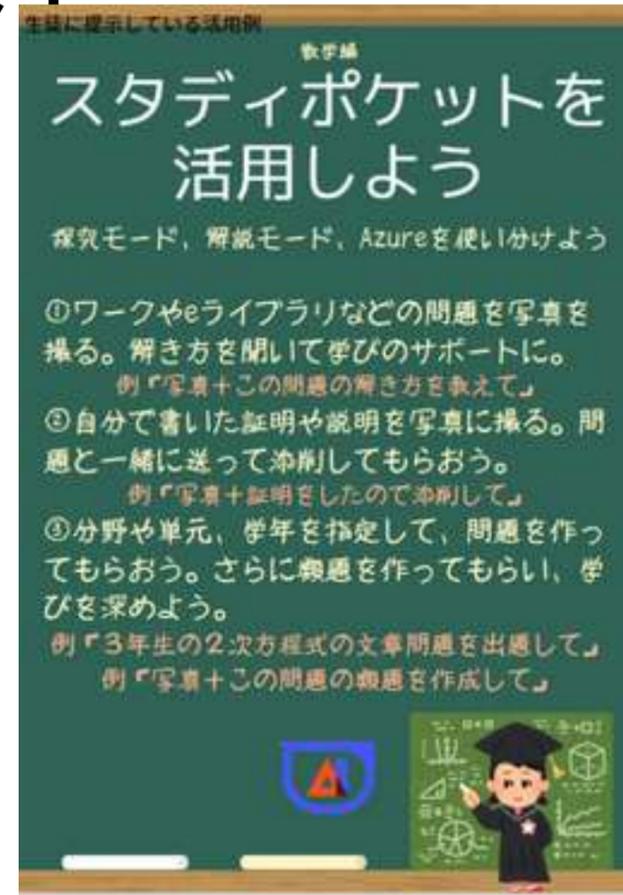
教科書で調べる

タブレットで調べる

生成AIで相談する

生徒の感想

「標本調査とは何か？生成AIからの応答だけではよくわからなかったが、授業を通して、標本調査は集団全体の傾向を推測するのに適していることがわかった。もっといろいろなパターンについて調べてみたい。」



AIの位置づけ

- 一人の相談相手として授業に位置づけ
- 自由に思考を深めるためのツール
- 多様な学習アプローチの一つ
- 教師や教科書と併用する補助ツール

メタ認知力を鍛える：数学（図形・証明）



▲生徒がすぐつかえるようにテンプレートをいくつか用意。必要なものを選択して活用する。

▲自分がかいた証明を評価してもらっている様子。

▲「合同の証明ヒント支援」のプロンプトで生成AIと相談しながら証明を組み立てている様子。



▲証明の問題や自分がかいた証明を、写真を撮って生成AIに聞いている様子。



▲生成AIのアドバイスを元に、証明を直している様子。



▲自分で証明する生徒、級友と相談しながら進める生徒、生成AIと証明に取り組む生徒など、様々な生徒が混在している。

創造性を鍛える：課外活動 「自由参加型の生成AI学習会 生成AI活用コンテスト」

夏休みの挑戦 **生徒の「挑戦したい」を形にする場を作る。**

クイズによるリテラシー教育の後、コード生成などの高度なツールを開放。知的好奇心を解き放つ。



成田市立西中学校
夏休み自由課題

生成AI活用コンテスト & 夏休み学習会

何をデザインしましたか？
あなたのデザイン [テンプレート] [Canva AI]
自動的に形にします
コードを生成
あります。正確性を確認してください。

夏休みに、生成AIをより活用してみませんか？参加者大募集！

部門について

- アイデア部門** 生成AIを活用してこんなことをしてみたい、できるといいな等アイデアを募集。
- 実践部門** 「こんなプロンプトでこんな成果が得られた」という実践例や、画像生成で作成したポスターなど、実際の成果物を募集。

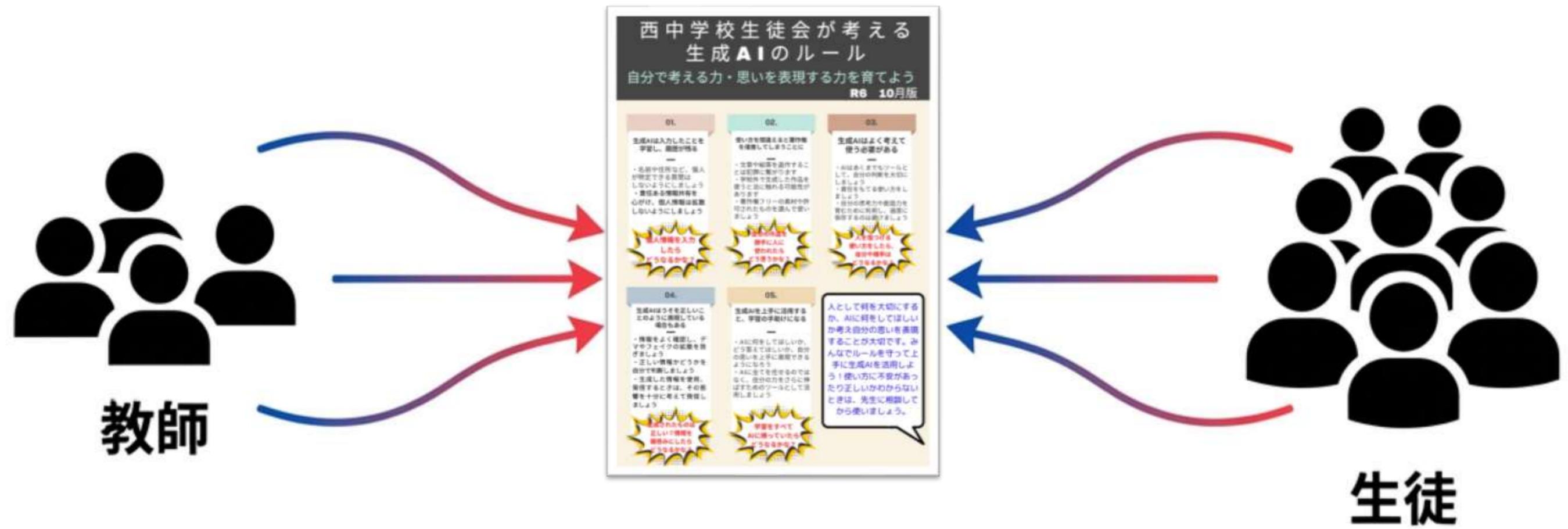
応募期間
今日 ▶▶ 9月1日(月)

夏休み学習会について
生成AIの活用方法の支援や相談会を行います。
学習会に参加すると、コード生成(ミニアプリ作成)や動画生成など、より様々な生成AIにもチャレンジできます！

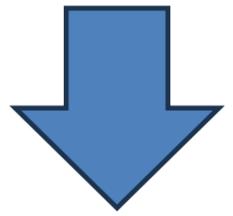
学習会の日
7月22日(火)23日(水) 10:30~11:30

※西中学校生成AIのルールを守って取り組むことが大前提です。
詳細については別紙をご覧ください

「与えるルール」から「共に考え創るルール」へ



生徒主体のルールメイキングが、**当事者意識**を育む



土台となるルールから、自分で考える**マナー・モラル**でセルフコントロールできる力を育てる**「情報モラル、メディアリテラシー」**の育成

「禁止」ではなく「どう使うか」 生徒主体の「情報モラル、メディアリテラシー」の育成

「デジタル・マナーシップ」を身につけよう! ~ネットにもある「心の距離」の大切さ~

ネットにもある! 「見えないパーソナルスペース」

こんな行動、してない?
パーソナルスペース侵害の例

- 何気なく送った写真の要求
- 返事がないのにメッセージを連続
- SNSで友達の投稿に過度にコメント
- グループLINEでの「ノリ」の押しつけ
- 許可なくスクリーンショットを撮って共有

パーソナルスペース
現実世界と同じように、ネット上でも人との関係性によって心地よい「心の距離」は異なります。しかし、それは目に見えないため、壊れやすい性質があります。

トラブルの原因は「悪意」より「無自覚」
「みんながやってるから」「熱い気持ちで」といった無自覚な一歩が、相手の心に深い傷を残すことがあります。

未来型のモラル「デジタル・マナーシップ」とは?

人としての「思いやり(マナー)」と、社会の一員としての「責任(メンバーシップ)」を組み合わせた、これからの時代に必要な新しい考え方は、

思いやり(マナー) + 責任(メンバーシップ)

大切なのは「相手の心の温度を感じるセンサー」

デジタル・マナーシップ

- 温度が高い時: 明るくやり取りできそう!
- 温度が低い時: 今はそっとしておくのが正解。
- 温度が分からない時: 慎重に、優しい距離感を保つ。

相手の状況や感情が見えにくいネットだからこそ、想像力を働かせることが重要になります。

今日から実践! 4つのアクション

- 1 “ためらいの一秒”を持つ**
メッセージを送る直前に「これを送ったら相手はどう感じるかな?」と一秒だけなも止まって考えてみよう。たった一秒がトラブルを劇的に減らします。
- 2 “公開の境界線”を引く**
SNSで書いていいこと、書かないほうがいいことの自分なりの線引きをしよう。相手にすることは、必ず確認を。
- 3 “距離感のチューニング”をする**
誰にでも同じ距離感で通すのではなく、相手のタイプに合わせて距離の遠さやコミュニケーションの頻度を調整できる人が、ネットでも現実でも強い。
- 4 “画面の向こうは人間”だと意識する**
当たり前のことですが、画面の向こうには遠慮を覚えた一人の人間がいます。相手の心を置き去りにせず、「一歩引ける勇気」が大切です。

AI時代の羅針盤

新しいパートナーです。AIを使い、それを使って、

尊重する: 創った人へ敬意を払おう

他の人の作品の盗用は犯罪です。利用ルールを確認して、賢く選びましょう。

確かめる: 「本当かな?」と考える探偵になろう

AIはうそをつくことがあります。生成された情報は、必ず自分で確かめましょう。

思いやる: 画面の向こうにも、人がいる
悪口や人を傷つける言葉の作成には、絶対に使わないようにしましょう。

育てる: AIに頼りすぎず、自分の力を伸ばそう
AIをアシスタントとして活用し、自分の思考力や表現力を伸ばしましょう。

ステージ3：飛躍 — 「創造」する学び

導入効果と今後の課題

成果 (Data-driven)



教員が「書類作成時間の短縮」を実感



教員が「生徒と向き合う時間が増えた」と回答

- 生徒はAIを「行き詰まった時のヒント」として主体的に活用。

課題 (Forward-looking)

- 教師: AIを利用した成果物の公正な評価、スキル差のある生徒への支援。
- 生徒: AIへの過度な依存の回避、倫理観のさらなる醸成。

教師の役割は、「知識を教える者」から「**創造性を引き出す者**」へ

生徒のうちなる創造性を引き出し、深い学びをデザインし、挑戦を支援する「ファシリテーター」

職員が相互に刺激しあい、学び合う文化の中で、最適な解を探す営みこそが私たち教職員にとって最も**ワクワクする挑戦**である



『**挑戦**っていいな』

挑戦するものがあるとワクワクする。何よりも毎日が楽しくなる。大きな目標も、日々の一步一步の積み重ねがあっつてこそ達成できるもの。

『**挑戦**』が西中を楽しくする。 さあ、**「前へ」**進もう！

MAKE A PROGRESS

「正解がない時代」だからこそ、
問い続け、挑戦し続ける。



ご清聴ありがとうございました